

SDGsを解決する「ツミキ哲学」 電気と通信でアフリカとビジネスが成長

アフリカの未電化の村に電気と通信を届けたいという思いから始まった「ツミキプロジェクト」。診療所に明かりが灯り、インターネットがどこでも使えるようになる。目指すのはアフリカとビジネスの持続可能な発展だ。 文◎原田果林(本誌)

アフリカに電気と通信を届けることで持続可能な発展をもたらし、さらにそれをビジネスとして実現しようとするプロジェクトがある。シュークルキューブジャボンが手掛ける「TUMIQUI Project (ツミキプロジェクト)」だ。なぜアフリカに電気と通信を届けるのか、とすれば慈善活動になりがちなこうした活動を、どうビジネスとして成功させていくのだろうか。

暗闇の出産で母子に危険が

シュークルキューブジャボン 代表取締役社長の佐藤弘一氏は、NTTヨーロッパを経て2008年にフランスで起業、長年ICT事業に携わってきた。

5年前、仕事でアフリカにある国際協力機構(JICA)の事務所を訪問した。「アフリカの面白さに触れ、同時にインターネットの遅さと電気が無い状況を体験した。以来、ICTの力で、アフリカの課題解決ができないかと考えていた」(佐藤氏)

2019年1月、JICAの「途上国の課題解決型ビジネス(SDGsビジネス)調査」に参加。実際にウガンダとセネガルの病院を訪れ、停電の多さや、未電化エリアの診療所の困難を知る。「特に夜中や早朝の出産が大変だと言っていた。暗闇の中、医師が懐中電灯を口にくわえながら出産を手伝うため母子が亡くなることもあると



シュークルキューブジャボン 代表取締役社長 佐藤弘一氏

聞き、頭を殴られた思いだった」

ツミキがもたらすもの

この経験がきっかけとなり、新事業としてアフリカに電気と通信を届けることを決めた。そして蓄発電システムとWi-Fi機能をワンキット化した「TUMIQUI Smart Kit (以下、ツミキスマートキット)」を開発。持ち運び可能なサイズで、折り畳み式のソーラーパネルから発電し、電球に明かりをとすだけでなくスマホやノートPCの充電もできる。「誰でも扱えるようにシンプルな作りにした。Wi-Fiもパスワードを入力するだけで簡単に使える。電気だけを提供するプロジェクトは山ほどあるが、どれも通信という視点が欠けている」

同年5月、セネガル

の保健省とMOU(覚書)を締結し、10台のツミキスマートキットを導入、診療所で実証運用した。未電化エリアでは1つの診療所で周囲に住む数千人から数万人を診ているケースも多く、9台のツミキスマートキットによって、約8万人が電気のある状態で治療を受けられているという。

また、こんな効果もあった。「セネガルでは健康保険システムの電子化によって、患者のデータ入力が必要になった。ある村の看護師は月に一度、30km先の大きな病院に入力しに行っていた。ガソリン代もかかるうえ、その間は診療ができない。ツミキスマートキットが導入されたことで、PCでインターネットが使えるようになり、この問題が解決された」

こうした結果が評価され、さらにセネガル国内の経済特区ともMOUを締結し、今年1月に現地法人 TUMIQUI JAPON SASUを設立した。

アフリカの発展=ビジネスの成長

ツミキスマートキットが与える影響は医療分野に留まらない。インターネットがつながることで、学校ではデジタル教育が実施でき、日常生活では通話・チャットアプリ「WhatsApp」が頻繁に使えるようになる。農業においても価格交渉などにスマホを利用するといひ、将来的には農業IoTの活用も想定している。「アフリカでもインターネットは強く求められている」

さらに、今年の夏にはツミキスマートキットを組み立て・修理できるアトリエ(専用の作業場)を前述の経済特区に設立する予定だ。現地での雇用創出や人材育成につながり、「メイド

インセネガル」製品を国内に販売できるようになる。

電気と通信があることで「出産から教育、他にも様々な分野を支援できる。工場を作ったり農業を発展させたりするためにも、全てにおいてインターネットが必要だ。この事業が上手く回ることで自然にSDGsの目標が達成できる」——この「ツミキ哲学」(図表)が

セネガルの高官にも支持された理由だという。

アフリカ市場への確信

「我々の最大の目的はアフリカ諸国の持続的な発展。そしてアフリカの発展がビジネスに繋がっていく」と佐藤氏が強調するように、ツミキソリューションの展開は慈善活動ではなくあくまでビジネスだ。

同氏は「マーケットはずっとあり続ける」と自信を見せる。アフリカの人口は今後も増加を続けるうえ、国土が広大なため2050年になっても未電化人口は4.5億人。その中でターゲットとするのは、西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)圏15カ国とその他フランス語圏3カ国の合計5億人、うち未電化人口は2.7億人だ。西アフリカの8カ国はユーロと固定レートでCFAフランを使用していること、ECOWAS圏は無関税で輸出ができることなどから「ハイパーインフレや外貨不足の心配もなく、安心してビジネスができる地域。JETRO(日本貿易振興機構)もこの地域に対しては通貨リスクがないと発信している」。



画像提供：シュークルキューブジャボン

売り先には、保健省の例のような政府・行政機関、未電化村落のコミュニティ、都市部の富裕層を想定しているという。ツミキスマートキットは、太陽光パネルや充電式電球込みで1台1200ドル。「今後10年で、140万台程度は売れる予測を立てている」

今後は、「年内に現地工場を建設し、セネガル国内外で販売を増やしていきたい」という。将来的にはツミキスマートキットとセットで、あらかじめアプリケーションをインストールしたスマホを販売・レンタルする構想もある。「例えばバイクタクシーやフィンテックなど、アフリカでアプリケーションを展開したい方々と協業できる。未電化地域の人々は遠方に住んでいるので買い物に出る機会が少ない。我々がツミキスマートキットを売ると同時にアプリがインストールされたスマホもセットで売れば、アフリカでの普及を後押しできる」

「我々が作ったICTプラットフォームに乗る形で色々な方にビジネスを展開してほしい」と佐藤氏は力を込める。ツミキスマートキットが、アフリカにおける生活とビジネスのインフラとなる日も近そうだ。

図表 ツミキ哲学のイメージ

